



環境に配慮した植栽維持管理 ～（株）エイチ・ユー～

法政大学多摩キャンパスは、1984年（昭和59年）に開校しました。
開校直後には小さかったキャンパス内の樹木も30年以上の時を経て高木に成長しました。



1 伐採樹木のウッドチップ化

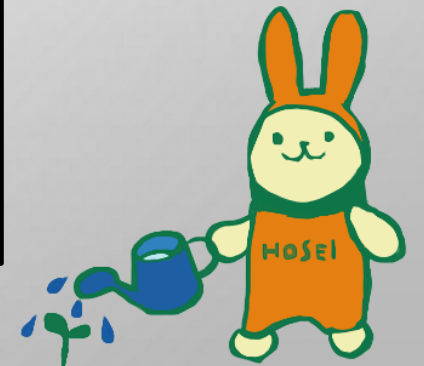
- キャンパス内の植樹はその樹木の維持やキャンパス環境に配慮して剪定を行います。
剪定した枝は廃棄せずウッドチップの原料として利用しています。



落葉樹剪定作業の様子



剪定した枝はパワーカッターという専用の機械を使いウッドチップを作ります



1 伐採樹木のウッドチップ化

- 作成したウッドチップを陸上競技場外周のランニングコースに敷設することでよりよいトレーニング環境の提供に役立てています。
ウッドチップは最後には土に戻ります。



2 落ち葉の再利用

- 剪定した枝を廃棄せずウッドチップの原料として再利用するだけでなく落ち葉についても再利用しています。



～意外と知らない多摩キャン～
紅葉がきれいな多摩キャンは、落葉のシーズンでもあります。毎朝、落葉を回収してくれていますが、その量はイメージできますか？

多い時には、この**軽トラ10台分**にもなります！



2 落ち葉の再利用



- 落ち葉はブロワーという機械で吹き飛ばして集めます。
集めた落ち葉はトラックに積み込みサイロへ移して腐葉土化します。



2 落ち葉の再利用

- 腐葉土はキャンパス内に設置しているプランターや花壇へ移され、花苗の植え付けを行います。



3 最後に

- 多摩キャンパスではこれらの取り組みによって無駄のない植栽維持管理を実現しています。

